



2011年にプロジェクトを始めて、今年、無事に10年目を迎えられることができ、ありがたい気持ちでいっぱいです。10年で木樹高2mくらいになるかな?と、思っていたけれど、予想より早いスピードで成長していて、すでに平均樹高3mほどになっているエリアもあります。成長の早いエリアは、間伐(本数調整伐)をしなければならぬ日も近いと思います。

プロジェクト担当部長 吉田

震災前の名取市の海岸林は、高田の松原の「奇跡の本松」のように、ひょろとしていて、葉が上にちよこつしているようなワロツツが多かったようです。以前は1haに1m

間隔で1万本植え(今は5千本)、伐採が禁止されていたので、間伐もできず、隣木との間隔が狭かったのが原因でしょう。

震災後は、茨城県から青森県までの太平洋側3600haで海岸林の再生が進んでいますが、防風 防潮 防砂、防塩効果を高め、何れも津波に耐えられる強い海岸林にするために、事実上の禁伐の流れが見直されおと

ころが、間伐するといっても、成長の悪いものを伐るという単純なものではなく、将来の防風効果、作業効率なども考えなければなりません。専門家でも迷うところで、早急に試験を繰り返して指針をつくらなければならぬでしょう



国が知恵を出してくださり作業道を掘り下げて遊水池にした。時々、カモが泳いでいることも...



名取市が「復旧しているサイクリング」周回工事の、内側りのマツの育ちが特に悪いんだよね... 葉が黄色に変色しているものもある。排水環境が悪い場所でも、あるので、おそらく木が影響しているとは思いますが



大きくなったなあ、お世話してるのありがとう



2012年4月

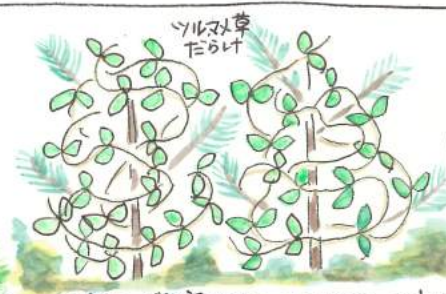
苗木は小さいから、ほかに小さいのがある



穴を掘る場所には特徴があり、砂質で穴が掘りやすいことが条件のようです。透水性が高いので、穴に滞水することなく、棲みやすい環境と判断できるでしょう



6月頃になるとあちはツルム草が大量に生えてくる。誰かが草を播いているんじゃないかと思うほど。かたやこちらは無草地帯、草刈りしなくていいから草だけ... 何が違うんだろう?



植物が生育するためには、土中の酸素、土中の太陽光、最適な気温が必要です。根が酸素を取り込み、葉や茎に養分を送っていますが、水はけの悪い場所は根が酸素不足になり衰弱してしまいます。すると草が生えても育ちません。79%湿のために70%の成長が悪い場所は、雑草がほとんど生えない場所とほぼ重なります。



植栽して6年近く経っているので、苗木の良し悪しではなく、土の影響だと思います。簡単にいうと、生育の良い場所の土は柔らかく、水が浸透しやすい。悪い場所は粘土質で堅く締まり、水が浸透しにくい。4.5mに生育した

場所は、70%マツにとって生育しやすい土壌条件がそろっていたといえます。もうひとつ大事なことは、菌根菌との共生です。育苗場の70%マツをコンテナから取り出しみると、根の周りがカビのように白くなっているのがわかります。これが菌根菌です。土中の養分を吸収して70%マツに供給するので、この存在が生育を左右しているとも言えます。このところキノコをたくさん見かけますが、アミダケが見つかったことは、70%マツが順調に育っている証拠!! 喜ばしいことです



苗木は小さいから、ほかに小さいのがある



調査すると、この辺りは1mほど掘り進めると木が湿り出てきます。盛土の工事をする前に、他の工事で誤って震災由来のヘドロをいちばん下に伏せたため、盛土表面の水が土中に浸み込みにくくなっていると考えられます。滞水が続くと土がヘドロ化して、さらに透水性が悪くなる悪循環になっているのかもしれない。79%湿を嫌う70%マツにとっては、生育条件が悪いのだらうと思います。



Dr. 清藤 (つばき) 180cmの吉田、150cmの浅野の成長の違いは何だろう? Dr. 清藤 ... それはわかりません。わかりませんが?

なぜ?

WHY

いろいろな疑問も Dr. 清藤 さんに聞いてみよう

Dr. 清藤: 山梨県在住、農学博士、オイスカ緑化技術参事(趣味) 料理、日本酒。以前は山登り、最近は登ることおれも、森や川や湖のいい場所を見つけてテントを張り、自然を満喫し、ちおとした料理をして日本酒をいただくことに移行!